

モーモー通信



むかしほなし 昔話 にでてくる 民具 ③



今回は、昔話「笠地蔵」に出てくる昔の道具を紹介します。笠地蔵は、みなさんもよく知っている昔話ではないでしょうか。

昔話「笠地蔵」とは

あらすじ 昔ある雪深い村に、おじいさんとおばあさんが住んでいました。大みそかなのに、もちをつくお米もないので、おじいさんは自分で作った笠を町で売ることになりましたが、一つも売れませんでした。

その帰り道、雪がふりはじめたので、おじいさんは蓑を着て帰る途中、雪をかぶった道端のお地蔵さまを見かけると、かわいそうに思い、売れ残りの笠をかぶせました。笠が足りないお地蔵さまにも、自分の手ぬぐいをかけました。

帰宅して、おじいさんがお地蔵さまのことを話すと「それはよいことをした」とおばあさんは喜びました。するとその夜にお礼に米俵やごちそうがお地蔵さまから届いた…とさ。



かさ 笠

笠とは、雨や雪、日光等が当たらないようにするため、頭にかぶる道具です。顔を隠すのに用いることもあります。素材は、主にいぐさ・わら等で、中四国地方では、竹の皮が多く用いられました。

作り方は、竹の骨組みに素材を縫いつけたり、編んだりする方法があります。笠の呼び名は、素材から呼ばれる他、作り方から「編笠」見た形から2つ折になる「つま折笠」等とよばれることもあります。また、毎月三度、江戸とおおさか おうらく ひきやく、ちやくよう さんどがさ と大坂を往復する飛脚が着用した「三度笠」もあります。



たけひがさ 竹皮笠



みの 蓑



カバみたいも〜



しょうわ 昭和30 (1955) 年 さつえい おかむらのりお 撮影：岡村徳男

蓑とは、ゆきやあまよけ、ひよけのために着るそとぎにもつはこはかたは肩あてにもなり、ちいきちいきそざいかたぢ地域により素材も形もさまざまです。

素材には、わら・すげ・いぐさ・シュロ・フジ等、くさじゅひほかかいがんぶでは海藻も使われました。かはんしんこしみの下半身をおおう腰蓑もついています。

現在、資料館では第四展示室で、企画展「モノ語りの道具展」をかいさいしょうかい開催しています！今回ご紹介した、笠や蓑もごらんいただけます。

くわしくはこちら →市HP



みんなで作った！三原市のジオラマ

しりょうかん 資料館ロビーに みはらし 三原市のジオラマを てんじ 展示しています！
 こちらは、8月19日に開催した、かいさい なつやす こ 夏休み子ども体験
 こうざ 講座「3Dプリンターでつくる！ふるさとのジオラマ」に
 おいて、じゅこうせい 受講生17名で さくせい 作成しました。
 どうぞ、見に来てください♪



つづきは資料館で ...

〒722-1303
 三原市久井町下津 1397
 三原市久井歴史民俗資料館
 TEL・FAX 0847-32-7139

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合、翌日休館)、年末年始

アクセス 中国バス久井中停留所下車

ごあんない図

